

正月を彩る細河の五葉松 池田市・山本洋さん



「松は枝の形が1本ずつ違い、曲げ方によって仕上がりが変わる。そこが楽しい」と山本さん

池田市北部の細河地区には植木団地が広がっており、各集落で地形、土壌等の特色を活かし様々な樹種が生産されている。古くは室町時代から山林苗木の生産に始まり、その後、周辺の城下町の発展とともに庭園木

の生産に移った。江戸時代には四国や江戸にまで出荷されるなど国内の花き園芸の発展を支え、日本四大産地の一つにも数えられてきた。同市農委の会長代理も務める山本洋さん(80)は、細河地区吉田の約57畝の農地で、50年以上にわたり、苗木を生産する農家だ。中心作目の五葉松は、5本の短い葉をつけ、幹や枝が柔らかく、曲げても折れにくいことから、盆栽や正月の「松竹梅」などで重宝される樹種。台木となる黒松の種まきから植替え、接

ぎ木、枝を矯める(曲げる)作業などを経て出荷までに7年を要する。地区では、苗木生産から手入・剪定作業をメインに切り替える農家も現れるなど全体では生産量は減少傾向。しかし、歴史ある産地の五葉松は根強い人気があり、山本さんのもとには、今でも仲買業者からの注文が殺到しているそうだ。山本さんは、「盆栽を飾る家庭も減りつつあるが、正月にはぜひ『松竹梅』を飾ってもらえると嬉しい」と話す。(沼田)

農作業着でファッションショー

府内大学生らが企画

昨年11月7日、和泉市小川(こがわ)地区で農作業着のファッションショーが開かれた。近畿大学経営学部の松本誠一ゼ

ミナールに所属する学生らが企画したものだ。「快適・かわいい・カッコいい」を新3Kとして位置づけ。おしゃれなだけでなく、機能性に優れた農作業着を目指し、府内の作業服メーカー・(株)たまゆらと連携してコーデイナーの試行錯誤を重ねた。当日は、畑のあ



写真の農作業着のコンセプトは「自分らしく働く農業女子」

おしゃれなだけでなく、機能性に優れた農作業着を目指し、府内の作業服メーカー・(株)たまゆらと連携してコーデイナーの試行錯誤を重ねた。当日は、畑のあ

ぜ道をランウェイ(花道)に見立て、ゼミ生と若手農業者計10人が週末の家庭菜園や新規就農した夫婦など様々なライフスタイルを想定した農作業着を着用して登場。伸縮性や高撥水加工など優れた機能面も紹介した。企画の発案者であるゼミ生の熊谷優希さんは、「実家が農家で、地域の農業を盛り上げたいという想いがあった。様々な方々の協力で実現できて嬉しい」と振り返り、「若い方々にも農業に興味を持ってもらうきっかけになれば」と期待を寄せる。(沼田)



全10種類の農作業着コーデイナーが披露された

風速計

昨年の阪神タイガースは12球団トップの77勝をあげながら、勝率差でヤクルトに及ばず涙のんだ。今年はい「寅年」。17年ぶりの優勝を期待したい◆中国伝来の十二支は、もともと植物が循環する様子を表しており、その年の特徴につながるらしい。寅は十二支の3番目で、子年に新しい命が種の中で芽生えはじめ、丑年には種の中で育つ。寅年は春が来て根や茎が生じて成長する時期だとされている◆唐突な地方負担導入で混乱を招いた令和4年度新規就農支援対策予算概算要求。昨年、多くの自治体や団体からの強い要請を受け、国は事業を見直した。就農者育成に向け明るい材料も◆一方、昨年幻に終わったオリックスと阪神の日本シリーズ。今年こそは正夢となりますように。(北川)